



大作登場！

▼7月5日(木) ●●

長い十字が小さくてすみません。しかも雑談only…暑いのと英・数でカオスになってます。7:39分両国発の電車に乗ったらものすごく混んでいて、速単どころではなかった。昨日のことをひきずっててもしかたないが、美意識について考えた。満月が美しいのは認めるが、私は糸のように細い月が儂げで美しいから好きだ、ということ。綾辻行人のあるミステリ(題名は伏せる)で、犯人が「花が朽ちるのは花の責任だが、手折ればそれは折った者の責任。美しいものが滅びに向かうのを止めるすべを持たないのであれば、最も美しい瞬間に手折り、すべての責めを負ってやるのが献身的な美の愛し方」というようなことを話していたな、とも。この人は歪だと思ふ。……あと2行半、意地でも埋めたくなるのが私のなので、ひとこと。誰か、高田崇史先生や歌野晶午先生、綾辻行人先生が好きな人はいませんか？

☆ババロア → 土瀝青(アスファルト)

↑あえてここでアスファルトなんて漢字で書いてしまうあたりで、私の術学的さ(術学の上にはペダンチックとルビを振っていただけますか?)がよく伝わると思う…あ、はみ出した。(金曜に読み返したら、嫌がらせかと思いました…)

*

私はこういう大作が好きである。そして、こういうのこそが、いかにも日比谷生らしい。日比谷生がペダンチックでなくて、一体誰が

ペダンチックになるというのだ。ちなみに、このアスファルトの漢字は、3年生の現代文で学ぶ森鷗外「舞姫」の中に登場する。私はそれを読んでいるから読めたが、そうでなければ読めないだろう。そして、授業で扱った日本人の美意識について、自分なりに考えたことを記述する…こういうのが、私は正統な日比谷生だと思うのである。

最近、大学入試の結果がイイというだけで日比谷を受ける受検生が増えている、つまり、日比谷の特長や伝統などを知らずに受検する生徒が増えているせいか、なんとなく「面白い」「個性的」な生徒が減っているように私は感じる。「自分勝手」を個性と思い違えているアホや、外見で個性が表現できるのではないかと勘違いしている手合いは増えたが、真の個性がそんなレベルのものではないことは、素直に考えれば君たちレベルの人間なら分かるはずである。(世間では、分からない若者=バカ者も増えている…)

学級日誌をそんな個性を表明する一つの場として活用してほしいのであるが、勉強が忙しいからか、部活に早く行きたいからか、なかなか感心する記事に出会えないで残念な気持ちでいた。もちろん、学級日誌程度に個性を發揮したくないというのも分かるから、ポーカーフェイスで流してもらっても結構なのだが、時間があったら、ぜひ読む者を楽ませる紙面を工夫してほしい。そういうことの積み重ねが、結局は論述力を養成したりすることにつながっているのだから。